

高校野球のイメージが高校球児に与える影響についての一考察

- 過去 10 年の朝日新聞の記事に着目して -

A study of influence of high school baseball's image
on high school player: focused on decade of Asahi newspaper article

1K06B172

指導教員 主査 吉永武史先生

丹羽力人

副査 間野義之先生

【研究の動機】

私は 14 年間の野球人生を通して心身ともに成長できたと感じている。私のこれまでの野球人生を振り返ってみると、良い指導者の下で指導を受け、恵まれた人間関係、野球環境で野球に取り組むことができた。そこで、野球からは対人関係によって育まれるコミュニケーションスキルや社会性、一つの目標に向かってチームで一致団結する協調性が養われる。また、野球は「爽やかではつらつとしている」という印象が私の中にもある。「爽やかではつらつ」や「社会性が身につく」といったことは実際に野球を経験した私は思っており、野球を始める前からこのような印象を抱いていた。なぜこのような印象を抱いたのだろうか。また、野球経験者ならまだしも、野球を経験していない人まで「野球 = 良いもの」と思っている現状に疑問をもった。しかし、野球には良い側面ばかりではなく、悪い側面も存在している。現に近年、高校野球部内での暴力などが起きている。4 年前には高知・明德義塾高校が部内での喫煙・暴力によって甲子園大会に出場できないということもあった。また、関西大学の野球部員が恐喝未遂事件を起こすといった不祥事も起きている。野球には良い側面もあれば、悪い側面もあるということである。そこで、私たちを取り巻くメディアと私たちが野球の中でも目にする機会が多い高校野球に視点を当て、メディアによって語られた「高校野球」という物語が、高校球児に対し

てどのような影響を与えているのかを検討していきたい。

【研究の目的】

第 1 節でまとめた動機を受け、メディアによって作られた「高校野球」という物語が高校球児にどのような影響を与え、高校野球に対するイメージを構築してきたのかを明らかにすることを目的とする。

そこで、本研究では、メディアと野球の関係性、中でも高校野球を対象にして考察し、メディアが高校野球・高校球児にどのような影響を与えたかについて検討していくこととする。

【研究の方法】

本研究では、まず高校野球とメディアに関する著書・関連文献、特に朝日新聞の記事を中心に進めていく。加えて、インタビューの対象は高校野球経験者に限定することとする。選手自らの経験を調査し、自身の経験や自らが考える高校野球と、メディアによって美化されたと考えられる高校野球・高校球児のあるべき姿についてどう思うかを調査し、選手の声から彼らがどの程度メディアに影響を受けたのかを検討する。

【各章の概要】

第 1 章では、高校野球について人々が感じている良い側面と悪い側面を明らかにしていく。

これらの検討については、主に高校野球に関連する文献資料・新聞記事の分析によって行い、高校野球がもつ社会的イメージについて分析していく。

第2章では、メディアが高校野球に参入してきた経緯やメディア、中でも朝日新聞社によって語られた武士道的野球を基調とした「凡てを正しく、模範的に」という「高校野球」がどのように作り上げられてきたのかというメディアと高校野球の関わりについて検討していく。

第3章では、元高校球児に対して行ったインタビューを通して、メディアによって語られた「高校野球」という物語が高校球児に与えた影響について分析・考察していく。